

共にしあわせ産みだす日本共産党

# 市議団ニュース

No 1809  
2016年8月14日  
日本共産党根室市議団  
根室市宝林町4-203  
TEL 23-6023  
FAX 24-1684

## どうなるー！今年のサンマ漁？

今年の地域経済を大きく左右する大宗漁業であるサンマ漁がどうなるのか。市民注目のサンマ棒受け漁業講演会が5日市総合文化会館で行われました。講師を務めた稲川亮氏は、道、国の研究機関のサンマ調査の結果を踏まえ「今年のさんま漁況・海況の見通しについて」講演しました。



道総合研究機構水産研究本部・釧路水産試験場研究主任 稲川亮氏

### 日本や台湾等の漁獲量は

稲川氏は大きく、サンマの漁獲量と生態。今年のサンマ長期漁獲海況予報の二点について説明しました。サンマ漁獲量と生態について水産庁が発表している資料から日本の全国漁獲量は、1990年から2015年の漁獲量がどう推移しているか説明しました。1990年の全国漁獲量は、約31万トン、2000年は、約21万2千トン、2010年は、約19万3千トン、2015年11万2千トンと2000年代入り急激

に減少しています。その一方公海上でのサンマ漁獲量を含む、中国、台湾、ロシア、韓国、日本の漁獲量が増加しています。2000年には、30万トンそこそこでした。2008年60万トン超、2014年は、70万トンに迫る漁獲量がありました。しかし、昨年2015年は、40万トンにも及ばない漁獲量で、この「5力国」の漁獲量も対前年比約30万トンも激減しています。

東経165度より東の海域での分布が多いと説明しました。そのサンマが順次日本近海へ来遊すると思われ今年は、サンマ漁が本格化する8月以降は、択捉島北の沖合に漁場が形成されるだろうと説明しました。

そのための、2016年度水産庁はサンマの資源量をABC（生物学的資源量）36万トン余に設定、サンマTAC（総漁獲可能量）は、2015年、2016とも過去最低の26万4千トンと設定しています。

長期漁獲海況予報「来遊量昨年よりやや少ないか？」

以降は、私・神忠志の感想も含めたものが・・。長期海況予報等から、100トン級の大型船は昨年並みの漁獲が予測できますが、小型船にとつては、かなり厳しいとも予想されるものになりそうですが、小型、大型とも大いに大漁を期待するものです。

水産庁が7月29日に発表した「長期海況予報」によれば、資源量推定値が昨年よりやや減少していることから漁場への来遊量も昨年をやや下回ると予想しています。

大型船出漁の8月下旬の漁期の初めは、先に述べたように漁場は、択捉島以北の沖合の広い海域に分散し、漁況も低調に推移する見込みとしています。その後、サンマ漁の状況は、上向くものの10日毎に区切るとその旬間毎に変動が大きくなると予測をしています。

サンマの回遊・漁場は？

サンマの総資源量が減少傾向にあることは確実、水産庁が北太平洋漁業委員会事務局「の機能を発揮し、サンマの国際的操業規制を行い日本近海へ回遊する資源保護をしっかりと行うべきと考えます。

### 公海上の操業規制こそ

今年サンマ資源調査で、回遊や漁場の形成はどうなっているのか、稲川氏は、6、7月、日本近海での分布状況は少ないとし、水産庁資料でも

釧路沖には、暖水塊が停滞、青森県沖には、暖